

## 令和3年度

### 消防委員会（第2回）会議結果

1 開催日時 令和3年12月17日（金）午後2時～午後3時30分

2 開催場所 成田市花崎町760番地  
成田市役所 6階 大会議室

3 出席者  
消防委員

村島 義則、伊藤 正美、岩館 剛三郎、伊藤 新一、四宮 良孝  
小泉 町子、小倉 ひとみ、豊根 浮文子、前田 修、長谷川 雅昭

10名

出席職員

消防長（鬼澤 正春）、次長（青野 穰）  
消防総務課長（松尾 芳幸）、予防課長（鈴木 俊幸）  
警防課長（弓田 春男）、指揮指令課長（飯嶋 等）  
成田消防署長（池田 博美）、赤坂消防署長（木村 正）  
三里塚消防署長（檜垣 勝美）、大栄消防署長（飯田 弘）

10名

消防団

団長（湯浅 雅明）、副団長（藤崎 和彦）、副団長（渡邊 直樹）

3名

事務局

消防総務課長補佐（竹尾 正明）、消防総務課主幹兼総務人事係長（藤崎 伸幸）  
消防総務課主査（久保木 章智）

3名

4 議事

報告第1号 「令和3年上半期消防概要について」

鈴木予防課長：

それでは、私から本年上半期の火災の概要について御報告いたします。

資料の2ページをお開きください。

本年6月までの火災件数は36件で、前年比で5件増加しております。

はじめに、「(1) 月別統計」では1月が10件で最も多く、次いで2月の8件です。この2カ月間では、さまざまな要因により火災が発生しておりますが、たき火による出火が6件で最も多いです。次に「(2) 種別統計」では、その他の火災が前年比で9件増加し、17件で最も多く、次いで建物火災の13件です。「(3) 出火原因」にあつては、たき火による出火が7件で最も多く、次いで電気機器等の4件です。

上半期の主な火災は、1月2日に小泉で発生した建物全焼火災で、高齢者の方が1名亡くなっています。2月17日に東町で発生した建物火災では、全焼6棟、部分焼10棟、合計16棟が焼損しております。

私からの報告は、以上です。

弓田警防課長：

それでは、本年上半期の救急・救助概要について御報告をさせていただきます。

資料の3ページをご覧ください。

本年上半期の救急出動件数は3,107件、前年比で276件増加し、搬送人員は2,762人、前年比で293人増加しております。しかしながら、月別の出動件数では、1月が565件と最も多くなっておりますが、前年比では68件減少、搬送人員におきましても同様に1月が最も多く520人ですが、前年比では39名の減少となります。

次に種別ごとの出動件数では、最も多いのが急病で2,019件と出動全体の約65%に当たり、続いて一般負傷、その他、交通事故の順となります。なお、その他の主なものは病院間の転院搬送であります。搬送人員につきましても同様の傾向であります。

資料の4ページをお開きください。

傷病程度別の搬送人員では、最も多いのが中等症で1,394件と出動全体の約50%を占めており、続いて軽症、重症、死亡の順であります。例年、軽症の割合が多かったですが、本年は中等症の割合が最も多くなっております。

続きまして、上半期の救助の概要についてであります。上半期の救助出動件数は46件で前年比で11件増加しております。種別ごとの件数では「その他の事故」が28件と最も多く発生し、前年比で6件増加となります。次いで「交通事故」が14件となります。この「その他の事故」は施錠された室内や車内に急病人がいるなど鍵やドアの破壊が必要となるケースなどがこれに当たります。

資料の5ページをご覧ください。

上半期のその他の概要であります。本年上半期の件数は509件と前年比で74件増加となります。

次に種別ごとの出動件数であります。P A連携が288件と前年比54件の増加となります。救命対応の救急出動にA E Dなどの救急資機材を配備した消防隊が同時に出動して傷病者の処置や救急隊の補助にあたるP A連携出動が昨年同様に最も多い出動種別となります。続いて救急支援の85件でありました。P A連携との違いでございますが、交通事故現場での安全管理や救急車内までの搬送が困難な場合など救急隊の補助を目的としたものであります。

以上、本年上半期の救急・救助の概要説明とさせていただきます。

飯嶋指揮指令課長：

それでは、令和3年上半期のちば消防共同指令センター及び成田市の119番通報受付概要について、ご説明いたします。

恐れ入りますが、資料6ページをご覧ください。

本年、上半期の指令統計ですが、昨年上半期と比較しますと、ちば消防共同指令セン

ターでは1,042件、成田市においては52件増加しております。

次に、「(1) 119番通報月別統計」をご覧ください。これは119番通報を月ごとに表した表ですが、成田市を見てみますと、1月から3月の間は282件減少し、4月から6月の間は334件増加しており、全体の数値は多少の増加はありますが、ほぼ前年と同等の数値になっております。

次に、「(2) 119番通報種別統計」をご覧ください、これは119番通報を災害種別ごとに表した表ですが、ちば消防共同指令センターでは救急以外の通報は前年と比べ増加しており、火災は92件増加・救急は458件の減少となっております。成田市においては、火災をはじめ、すべての災害に関する通報が312件増加し、その他の通報が260件減少しましたが、全体の件数に明らかな変化はございません。なお、記載の件数は119番を受付時に災害種別を選別し、出動指令を行ったものを計上しております。

以上、簡単ではございますが、ちば消防共同指令センターで受付した119番通報について、説明を終わります。

## 報告第2号 「令和3年度下半期事業計画について」

松尾消防総務課：

それでは、私から、本年度下半期の事業計画につきまして、御報告をさせていただきます。既に実施済みの事業につきましても改めて御報告させていただきます。

それでは8ページをお開きください。

10月4日から8日の間に、今年度から消防本部では初めて、新規救助隊員候補者養成研修を実施しました。救助隊員になりたい職員に対し、公平に候補者を選抜し、救助隊員として相応しい職員の活躍の場を与えることにより、救助業務の充実強化を図ろうとするものであります。10月19日、印旛MC救急救命処置確認訓練を日本医科大学千葉北総病院で行いました。処置確認訓練は、救急救命士を含む救急隊員が行う応急処置の技術を向上させるために行っているものです。10月29日、千葉県市町村消防長・団長会議を市原市市民会館にて開催いたしました。

11月2日千葉県消防長会秋季総会を旭市にて開催いたしました。11月7日、2021成田POPランマラソン大会を中台運動公園陸上競技場で開催されました。例年は5,000人ものランナーが参加しておりましたが、規模を縮小し、約766名のランナーが参加されました。消防本部としまして、マラソンランナーの迅速な救護活動を実施するため消防特別警戒を行っております。11月9日から15日までは、秋季全国火災予防運動としてユアエルム成田におきまして、防火ポスター展示会と11月13日に防火フェスタ2021を開催し、約1,300名の市民の方が来場しております。11月11日、2021年度成田国際空港航空機事故消火救難総合訓練を空港内で開催いたしました。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により、訓練実施者のみでの開催となりましたが、今年度は感染対策を図りながら、フルスケールでの61機関、約700人が参加しまして訓練を実施しております。

12月5日、消防団大規模災害初動対応訓練。この訓練は、常備消防と非常備消防との連携強化を目的に、企画の段階から管轄消防署と協議を行ったうえで、消防活動に対す

る、知識、技術の向上を図り、各消防署及び分署にて、消防団は湯浅団長以下総勢 469 名が参加し訓練を実施しております。

9 ページをご覧ください。

年が変わりまして、令和 4 年 1 月 14 日、成田市の無火災を祈願し、消防団無火災祈願を成田山新勝寺で行います。1 月 26 日、第 63 回千葉県消防職員意見発表会がいすみ市にて開催されます。千葉県消防長会第二ブロック代表として、大栄消防署の笠松勇志消防士が発表する予定であります。

2 月 3 日から 4 日には、千葉県消防広域応援隊合同訓練が千葉県消防学校で開催される予定です。本市消防本部からは消火小隊として公津水槽 1 と後方支援として三里塚支援 1 が出向予定であります。2 月 6 日に成田市消防出初式を成田国際文化会館で開催する予定で進めております。出初式の詳細につきましては、後ほど、その他でご説明いたします。次に 2 月 18 日、千葉県消防協会印旛支部第 2 回定例総会が開催されます。

3 月 1 日から 7 日、春季全国火災予防運動。3 月 6 日、消防団器具庫一斉点検、市内 9 4 ヶ部の消防器具庫等の点検を行います。3 月 23 日、千葉県消防大会、会場は青葉の森文化ホールです。なお、当日は本市消防音楽隊が演奏のため出向予定であります。3 月には、第 3 回消防委員会を開催したいと考えております。

以上、令和 3 年度下半期 事業計画について、御報告させていただきました。

報告第 3 号 「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会における消防特別警戒の報告について」

檜垣指揮指令課長：

それでは、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会消防対策委員会について、ご説明いたします。

恐れ入りますが、資料 11 ページをお開きください。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されるにあたり、成田国際空港の利用者に対するテロ災害等の緊急事態の対応や、計画的な体制の整備を行うため、平成 30 年に「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会消防対策委員会」を立ち上げ、消防体制の充実強化を目的とした対応を検討し、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会対応計画」を策定し運用いたしました。会議実績としまして、平成 30 年の立ち上げから競技大会終了後のフィードバックを含め、合計 16 回の会議、5 回の書面審議を実施いたしました。

以上、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会消防対策委員会について説明を終わります。

警備体制の詳細につきましては警防課長から説明がございます。

弓田警防課長：

それでは警防課より、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に伴う成田国際空港における消防特別警戒実施結果について報告させていただきます。

資料の 12 ページをご覧ください。

警戒については、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に伴う成田国際空港における消防特別警戒及び県内消防応援計画」に基づき実施しました。

警戒実施期間ですが、まず、オリンピック競技大会では、令和 3 年 7 月 21 日（水）か

ら閉会式が行われた8月8日(日)まで警戒を実施しました。開会式は、7月23日(金)に実施されましたが、サッカー競技とソフトボール競技が開会式に先行して21日から実施されたため、7月21日から警戒を実施したものです。パラリンピック競技大会につきましては、開会式が実施された8月24日(火)から閉会式が実施された9月5日(日)までとなります。両大会合わせて延べ32日間、消防特別警戒体制を実施しております。時間につきましては、いずれの大会も成田国際空港の運用時間である午前6時から午前0時までの18時間を警戒いたしました。

警戒区域は、成田国際空港とソフトターゲットとなり得るその周辺に位置しますホテルや貨物施設とさせていただきます。

続きまして、配備部隊になります。通常災害に対応する部隊とは別に、テロ災害等における専従部隊を配備いたしました。配備した部隊につきましては、指揮隊1隊3名、毒劇物救助隊1隊5名、除染隊1隊5名、救急隊1隊3名になります。救急隊につきましては、近隣の10消防本部に応援をいただいております。その他に指令員を1名増員するとともに応援消防本部との連絡調整員を2名配備しております。1日あたりにおける配備人数は19名で、オリンピック競技大会、パラリンピック競技大会合わせまして、延べ598名が警戒にあたっております。

警戒内容でございますが、専従隊の待機場所としまして、各隊の所属する各課消防署で待機しておりました。応援救急隊については、毒劇物救助隊と共に出動できるよう、三里塚消防署にて待機室を設け、待機していただきました。執務時間中においては、各署にてCBRNEテロ資器材の点検、活動内容の確認を行い、成田国際空港や周辺施設に対する巡回を実施しておりました。

資料の14ページをお開きください。

本消防特別警戒体制にあたった、ある1日の警戒日誌になります。午前中に応援消防本部とミーティング、CBRNEテロ活動における図上レクチャー及び資器材点検を実施しております。また、午後は、成田国際空港内の巡回を各隊で実施しました。

資料の15ページをご覧ください。

左上の写真は応援消防本部の隊員に対してCBRNE災害における活動内容をレクチャーしている写真になります。続きまして、右上の写真は本市消防本部が保有する資器材を展示している写真になります。化学剤や生物剤検知器の他、レベルA防護服や傷病者を搬送する担架などの取扱いについて説明しております。下段の写真は、空港内の巡回状況になります。成田国際空港を車両と徒歩にて巡回し、実際にテロが発生した場合の地理的状況を確認しました。

資料の13ページをご覧ください。

続きまして、オリンピック・パラリンピック競技大会に伴う災害件数及び関係事案について報告させていただきます。オリンピック・パラリンピック期間におけるテロ等の災害は発生しておらず、専従救急隊が出動した件数も0件でした。警戒期間中、空港内で発生したオリンピック・パラリンピック競技大会に関連する救急事案が2件ございましたので報告させていただきます。1件目の救急事案ですが、エチオピア国籍の23歳女性のオリンピックアスリートが、頭痛及び発熱症状があり成田空港救急1号車に対応しております。2件目の救急事案は、アメリカ国籍の45歳女性のバスケットボール関係者が、全身の震え症状から三里塚救急1号車に対応しました。

オリンピック・パラリンピック競技大会の開催にあたり、テロ災害事案が発生した場合、被害を最小限に収めるため、的確かつ迅速な災害対応が図れるよう訓練を実施してまいりました。訓練を実施する中で、実際に成田空港内で訓練を行い、NAAや千葉県警察などの多機関とも連携を図ったことで、CBRNEテロ災害に対する災害対応につ

いて飛躍的に向上することができたと感じております。オリンピック・パラリンピック競技大会は無事に終了しましたが、今後においても、日本の空の玄関である成田国際空港を所管する消防本部としてC B R N Eテロ災害に万全を期してまいります。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に伴う成田国際空港における消防特別警戒実施結果については以上のとおりです。

#### 報告第4号 「特殊災害事案の対応について」

木村赤坂消防署長：

成田市内で発生した救助NBC災害事案について、ご報告いたします。

お手元の資料17ページをお開きください。

発生日時は令和3年8月2日(月)18時15分頃、発生場所は成田市内公衆浴場施設であります。通報内容ですが、「ボイラー室で次亜塩素酸ナトリウムとポリ塩化ナトリウムを混ぜた。ガスが発生している模様。要救助者は33歳男性1名、施設利用客の50名は避難誘導中。」との施設従業員からの通報により出動しました。

活動概要については、消防車両11台、出動人数38人、警察車両4台、出動人数10人でした。先着の水槽隊は、風向を考慮し、建物西側に部署。現着時、すでに数名の利用客が店舗入口から建物南側の駐車場へ避難している状況でありました。避難誘導と並行して関係者からの情報収集を行ったところ、利用客50名と従業員6名、計56名であるとの聴取をしました。情報収集の結果、災害点は施設北東側のボイラー室(写真1)と判明、水をろ過する際に使用する凝集剤のポリ塩化アルミニウムを入れるタンク(写真2)に、誤って除菌剤の次亜塩素酸ナトリウム(写真3)を補充してしまったため、何らかの有毒ガスが発生したものでした。作業していた33歳の男性従業員と様子を見に来た55歳の男性従業員の計2名が気分不快を訴えている状況でした。また、ガス検知器を使用し、建物周辺の環境測定を実施するも、検知に異常なし。救急隊及び後着の水槽隊と共に現状を確認、消防警戒区域の設定及び傷病者の確認をしながら、利用客と従業員の避難誘導を行いました。確認の結果、傷病者は従業員男性の2名で、建物北側職員駐車場に立位でおり、共に喉の痛みを訴え消防隊に介抱されていたため、初期観察を行いながら応急処置を行いました。

資料18ページをお開きください。

後着各隊の活動として、本部指揮隊は、出動途上に三里塚支援1及び本部資材1の増隊を要請し、集結場所の指定及び活動指示を行い、現着後、建物北側に現場指揮本部を設置、各隊の進入統制と進入統制ラインの設定指示。高度救助隊は指揮隊から検知活動を下命されたため、ボイラー室及び施設内の検知を実施するも検知に異常なし。成田水槽隊は、化学防護服及び空気呼吸器を着装し、高度救助隊の活動補助及び除染の準備を行いました。三里塚支援隊は、出動途上の車内で隊員3名が化学防護服を着装、現着後に進入準備を行うも現場待機。三里塚水槽隊は、三里塚支援隊の活動補助にあたり、現場待機。

本件では11隊がそれぞれ活動を行うも、現場にて異常は検知されず、また傷病者はボイラー室で作業に当たっていた従業員2名のみであったため、関係者に次のとおり口頭指導を行い、現場引き揚げとなりました。指導内容については、「(1) マニュアル等を活用し再発防止の徹底」、「(2) 維持管理の確認」、「(3) 保健所の指示に従うこと」、「(4) 結果を消防に連絡する」こととなります。なお、傷病者は救急車2台により成田赤十字病院へ収容し、塩素中毒で中等症と診断されました。

終わりに、本市消防本部では、東京2020オリンピック競技大会開催に向け、テロを含

めた特殊災害対応訓練を数多く実施してきたため、現場活動をスムーズに行うことができ、訓練の重要性を再認識することができました。

飯田大栄消防署長：

大栄消防署から、成田市で発生した火災ではありませんが、大栄消防署管轄の神崎町で発生した電車火災は、特異事例でありますので、御報告させていただきます。

お手元の資料 20 ページをご覧ください。

発生日時は、令和 3 年 7 月 27 日火曜日 20 時 00 分です。発生場所は、香取郡神崎町郡 1235、J R 下総神崎駅であります。

写真 1 をご覧ください。出火した電車が J R 下総神崎駅 1 番線に停車している車両の成田方面より撮影した状況です。

事故概要ですが、逗子発・鹿島神宮行き 4 両編成の前から 2 両目車両、屋根部に設置している、避雷器と配線が焼損した火災であります。参考に避雷器とは、鉄道車両や架線に落雷が起きたときに、その電流が動力モーターや電子機器などへの流入を防止する故障防止装置であります。写真 2 と 3 は避雷器の焼損状況の写真となります。

次のページをご覧ください。写真 4 と 5 は同型車両の避雷器です。

当日の気象状況ですが、天候は曇り。風向は北西。気温 23.1℃。風速 1m/s・湿度 95%。同時分に強風・雷注意報が発令されていましたが、駅周辺に雷が落ちたという情報はありません。

次に、経過を説明させていただきます。覚知は 20 時 02 分、119 番通報の第 1 報では、J R 下総神崎駅ロータリーに、自家用車内にいた方から、「バーンと言う音を 2 回聞き、電車のパンタグラフから出火及び白煙が上昇し車内停電。負傷者は不明。建物への延焼危険はなし。乗客は避難していない。電車は停車中。」との通報でありました。

出動隊は指揮隊以下 7 隊 24 名が出動しております。利用者の避難状況にありましては、乗客約 120 名は乗員 3 名の誘導により駅ロータリーへ避難しており、負傷者はいませんでした。写真 6 は避難状況を撮影した写真となります。

初期消火の状況ですが、乗員 2 名により電車内設置の消火器 4 本を使用し、鎮圧状態でありました。先着隊は 20 時 14 分に下総水槽 1 と下総ポンプ 1 が到着し、速やかに関係者からの情報収集し、逃げ遅れ者と負傷者の確認、警戒ホースラインの設定、後続隊への情報提供をしております。出動各隊の活動ですが、指揮隊は、指揮本部を設置し、各隊への指示、下命をしました。各消防隊は、警戒活動並びに乗客の観察をしました。大栄救助隊は、熱画像探査機、可燃性ガス測定器を使用し、電車内外の安全確認をしました。空港救急隊は、乗客の観察をしました。

鎮火であります。22 時 06 分、J R 関係者により、パンタグラフを下げ、架線から鉄道車両への電気遮断を最終確認し鎮火に至りました。

出火原因としまして、神奈川県にある J R 横浜支社鎌倉車両センターの技術員の協力のもと、現地調査し、避雷器内部の配線が過電流で発熱した結果、配線の被覆が燃え、火災に至ったものと断定しました。

以上、下総神崎駅で発生しました電車火災の報告とさせていただきます。

《報告第4号に対する質疑》

岩館委員：傷病者の中等症とはどの程度の負傷なのか。

弓田警防課長：入院加療が必要となるものです。

《質疑等》

伊藤（新）委員：常備消防の消防体制について、2点ほどお伺いしたいと思います。

まず1点目に、三里塚消防署が完成し、消防署の建て替えについては計画に沿って整備していると思いますが、分署の建て替えについて計画をお聞きしたい。特に飯岡分署は、建て替え時期に来ていると思います。飯岡分署のよう設置基準には達していないが地域事情によって設置した署所の配置や空港分署の消防力についても第3滑走路の整備と合わせ、救急隊だけでなく消防隊の検討が必要になっていると思います。まずは今後の消防庁舎の整備計画について、お聞かせいただきたい。

2点目として職員の配置状況についてですが、三里塚消防署、大栄消防署、下総分署、飯岡分署についてはそれぞれ兼務して隊を配置していると思います。また、大栄消防署の隊員が日ごろからの訓練により、関東救助技術大会に出場するなど高い技術を持っていることは承知しておりますが、現場活動においては様々な対応力と高度な救助技術が要求されます。一方、大栄消防署管轄では圏央道の開通に伴う高速道路上の火災出動や交通事故による救急救助要請の増加も予想されます。このようなことから救助器具を備えた消防隊として編成している現状では、その対応力に限界があると思います。専任体制への移行などの議論が必要ではないかと考えますが、検討している状況についてご回答をお願いします。

松尾消防総務課長：今後の消防庁舎の整備につきましては、まずは、建設から38年が経過し、周辺地域の状況も変化している飯岡分署について、実施したいと考えております。そこで建て替えに向けまして、市の関係各課と建設について、調整をしております。また、空港の機能強化についてであります。空港機能が拡張されれば、必要な消防力も変わる可能性もあります。しかし、空港機能の拡張が成田市の地域外に及ぶことから、消防事案発生時の対応などを含めて関係消防本部との調整のもと、必要に応じて空港分署の位置や配置する消防力について検討してまいりたいと考えております。

なお、飯岡分署の庁舎規模につきましては、住宅地の構成などの状況や空港の機能強化などを踏まえまして、配置する部隊の必要性についても検討しなければならないと認識しております。

2点目の職員の配置状況についてであります。委員の方には、兼務隊を初めてお聞きになった方もいらっしゃると思いますので、兼務隊についてご説明しますと、兼務隊は総務省消防庁が定めている消防力の整備指針に認められている体制でありまして、1つの部隊が2つの役割を掛け持ちしている体制であ

ります。例えば、消防隊と救急隊を兼務しているのであれば、先に出動要請のあった内容により消防車または救急車を乗り分けて出動しております。成田市では、救急隊と消防車の兼務隊は、三里塚署、大栄署、飯岡分署、下総分署に配置しており、消防隊と救助隊の兼務隊は、大栄署に配置しております。

兼務隊は、2つの部隊が常駐している状態ですが、どちらかの出動要請があれば、他方の出動可能な隊員はいなくなります。この状態を解消するためには、それぞれが専属化し、独立する部隊として運用する方法がありますが、そのためには、運用できる職員、つまり消防職員の増員が必要となります。

消防職員充足率ですが、成田市は同規模の自治体と比較すると、人口に対して面積が広いため、人口から算定される基準数と比較すると、多い状態ではありますが、消防ポンプ車などの配置など消防業務に基づく配置等の指針として、総務省消防庁が定める消防力の整備指針では、運用車両に基づき、算定される職員数では、不足しているとされ、定数ベースでの充足率は、76.7%という状況であります。

現在の状況としましては、消防に求められていることは、災害対応の専門性が高まっていること、救急需要が増加していること、更に、自然災害が多発化・激甚化している状況から、専門性を有した災害対応に必要な消防力が求められており、勤務する職員の負担を考慮し、職員数を含めました組織体制の見直しをする時期ではないかと考え、市の関係する各課を含めて、組織体制検討委員会を設置し、打ち合わせをしておりますが、将来的な人口などの市の状況予測から、増員による市への影響があることから、協議は進展していない状況となっております。

## 5 その他 叙勲受章報告について

松尾消防総務課長：

第37回危険業務従事者叙勲と令和3年秋の褒章受章者について、御報告させていただきます。

恐れ入ります資料の24ページをお開きください。

第37回危険業務従事者叙勲において、消防本部元職員であります大木智勝様、多田光夫様、根本真司様が瑞宝双光章に、小倉誠一様が、瑞宝単光章にそれぞれ受章の栄に浴されました。

次に令和3年秋の褒章であります。成田市消防団副団長の渡邊直樹様が藍綬褒章の栄に浴されました。

なお、叙勲及び褒章の伝達式等につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となっております。以上でございます。

## 6 傍聴者 0人

7 次回開催日時（予定）  
令和4年3月